



↑ 3年ぶりの秋季大祭（神幸祭）頓宮お発ち祭 宮司祝詞奏上



ともかき

社報「ともかき」第19号
 【発行】妻垣神社社務所
 【発行日】平成31年1月1日
<http://www.tumagakijinja.com>
 ☎ 0978-44-2519

奉祝 天皇陛下御在位三十年

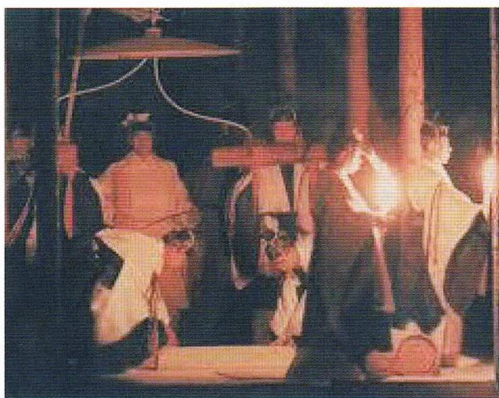
いよいよ御代替わり

いよいよ本年四月三十日をもって「平成」の御代が閉じようとしています。「平成」は元号が制定されてより、三番目に長い御代となり、その由来は『史記』五帝本紀の「内平外成（内平かに外成る）」、「書経（偽古文尚書）大禹謨の「地平天成（地平かに天成る）」からで「国の内外、天地とも平和が達成される」という意味とされます。しかし、その願いと裏腹に国内では阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震、九州北部豪雨等の自然災害に見舞われ、国外では湾岸戦争やイラク戦争等の戦争や紛争・テロが今尚各方面で続いています。

さて天皇陛下のご公務といえば、国会の開会等の国事行為、全国戦没者追悼式への御出席、園遊会、被災地へのお見舞い、各国代表とのご会見等々、報道でご紹介されている事のみと思われがちですが、これらはほんの一部であり、年間のご公務は約七〇〇件を数えます。その中でも陛下の最も重要なお務めは「祭祀」です。皇居の「宮中三殿」では約三十の宮中祭祀が年間通

じて執り行われており、御在位三十年の間、世界の平和、国の平安、国民の幸福を祈り続けてこられました。これは歴代天皇より受け継がれてこられた大事なお務めであり、新帝となられる皇太子殿下へと引き継がれていかれます。

本年五月一日、皇太子殿下は陛下より皇位を受け継がれ、第一二六代天皇陛下となられます。ご即位に伴う一連の行事は今年一年を通じて執り行われますが、中でも十一月十四・十五日には最も重要な行事「大嘗祭」が斎行されます。大嘗祭とは新帝が主基地方・悠紀地方より献納された御米を八百万の神々に捧げる御一



→平成二年 大嘗祭

代に一度の重儀で、平成の大嘗祭では亀トにより、大分県が主基地方に、秋田県が悠紀地方に選ばれました。

この度のご即位にあたり我々国民はこの慶賀をこぞってお祝い申し上げなければなりません。既に全国を始め、宇佐市内の各神社では御大典に伴う記念事業及び奉納等の準備が執り進められています。当社も昭和、平成の御大典時には記念事業をおこない、お祝いしてきたことが神社の記録に残っており、今回も同様に実施したいと考えております。(平成御大典事業：本殿内改修工事他)

平成最後の 献穀米

ご即位後、毎年十一月二十三日に宮中賢所にて齋行されるのが収穫に感謝する新嘗祭です。新嘗祭では明治以降、全国より献穀米が宮中に献上されます。大分県も同様に各自自治体が年番で米とアワを作っており、昨年は宇佐市が選ばれ、安心院町尾立地区の菅原維範氏の田がその栄を賜りまし



児童による稲刈り

た。安心院町は昭和の最後の年もその栄に輝いており、何か不思議なご縁を感じさせます。

平成最後ということもあり、菅原氏を始め尾立集落の思いは強く、力を合わせてその大役に務められ、六月二十一日に御田植祭を、十月十二日には抜穂祭が齋行されました。また田植え、稲刈りには地元津房小学校の児童も収穫に参加しました。収穫された御米は一粒づつ選り分けられ専用の桐箱に納められ、耕作者の菅原氏自ら皇室へ参内し、献上されました。

3年ぶりに神幸祭を齋行

秋季大祭 楽しくにぎやかに



↑ 焼きいもの仕込みをする総代

去る十月二十七日、二十八日にかけて、恒例の秋季大祭(例大祭・神幸祭)が齋行されました。一昨年は台風接近の為、その前年も連日に続く長雨により神輿が出る神幸祭は中止となりました。二年続けてとあって、今年こそはと氏子一同願った甲斐もあり、両日に渡っての秋晴れとなりました。期間中の神賑行事として安心院句会(代表大隈草生)による献詠、十ヶ平神楽社による神楽、数度にわたる餅まきがおこなわれました。

そしてお祭りといえば出店です。かつては外部からの露店で境内が賑わっていましたが、氏子の減少により、その需要が見込めないため、近頃では露店がありませんでした。しかしそれではあま



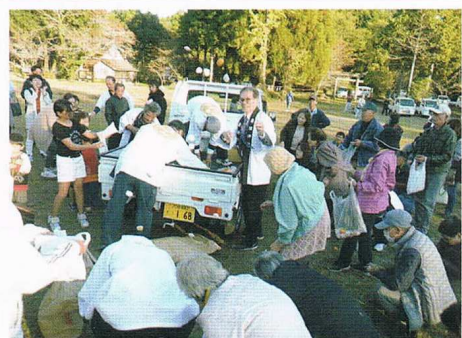
収穫された御米とアワ



↑ 巫女による豊栄舞

さみしい出来事もありました。御旅所前での氏子対抗のソフトボール大会の取り止めです。五集落の交流を目的に昭和五十年代より実施してきましたが、氏子の減少により参加者が見込めず運営が難しくなりました。毎年楽しみにしていた、当日の参拝者の数が減る等の意見もありましたが、時代の流れには勝てない

りにもさみしいと、総代会で協議し数年前より氏子による露店を開いています。今回はわたがし、ポップコーンに併せて、安心院自動車の協力により、焼きものの販売を実施。専用機械での焼きものは好評で、用意していた芋は数時間で全て無くなる始末。来年もしてほしいとのたくさんの方の声を戴きました。



致し方ないことの一つでしょう。これに伴い参拝者が少なくなるのではと危惧しておりましたが、氏子はもちろん、多くの氏子外の方にお参り戴き、境内は多くの人で溢れました。

神社を取り巻く環境は年々厳しく、氏子の減少により、神輿を担ぐことはもちろん、年間の祭事を行なうことすらも難しくなってきました。時代の流れと言えども、それまでも、何もせずただその流れに身を任せるのではなく、少しでもその流れをゆるやかにする、そして先人より受け継いできた素晴らしい伝統文化を絶やさないうように努力することこそ我々の大事な使命ではないでしょうか。

安心院中学校二年生供養塔清掃・調査

宇佐両院戦没者慰霊祭

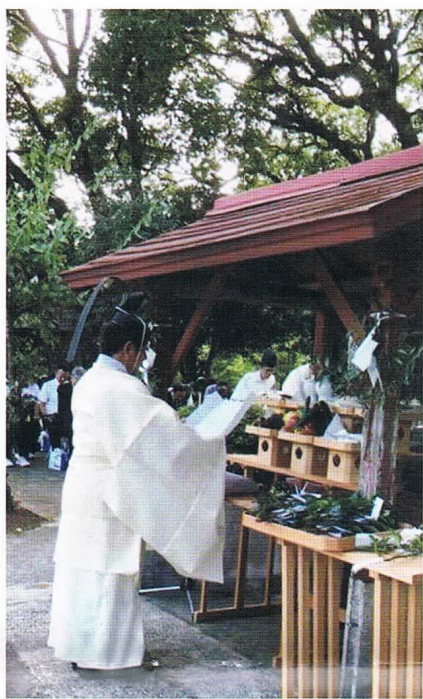
八月の戦没者慰霊祭に先立ち、安心院中学校二年生が供養塔の清掃活動のため来社しました。清掃に先立ち矢野総代長より、安心院校区二二二名の戦没者のうち、数名



遺影を調査する生徒たち

について説明がありました。戦争というものは遠い過去の話、また他人事ではなく、私たちの身近な人が戦争に携わっていたことが話されました。生徒たちは熱心にそれらの話を聞き、その後、展示してある戦没者遺影を見学。名前、年齢、死因、死亡地を調査しました。また一〇七一柱の御霊を慰める慰霊祭には永松一郎校長先生と共に代表生徒二名が参列。御霊前に献花を捧げました。戦争を経験していない世代が再び過ちを犯さないよう、このような活動が続いていくことを望んでいます。

宮司、祭詞奏上



輝かしい未来にむかって

安心院高校合格祈願祭



↑ 自分たちがついたお餅を奉納し祈願を受ける生徒たち

毎年、安心院高校では受験や就職をめざす三年生を激励しようと年末に餅つき大会が行なわれます。高校を取り巻く環境は厳しく生徒数は年々減少しており、今年の三年生は六六名と少ない状況です。しかしながら、特色のあるコースにより、大学進学、資格を取得すべく専門学校、そして就職と、一人一人将来に向かって日夜学業に勤しんでおり、見事な実績を残しています。

当日は保護者が用意した餅米を生徒らがはちまき姿で杵でつき、ついた



本殿へ進む生徒たち

秋季大祭にあわせて安心院高校茶道部によるお茶会が遺族会館にておこなわれました。昨年は台風によりやむを得ず中止となり、二年ぶりの開催となりました。五回目を数えるお茶会は毎回好評

で、部員が少なく活動が難しい中、顧問の先生方の指導のもと、お茶を通じて地元の人との交流となりました。また引き続きの献茶式では真心込めたお茶が御神前に奉納されました。



お茶会の様子

秋季大祭 お茶会・献茶式

安心院高校茶道部





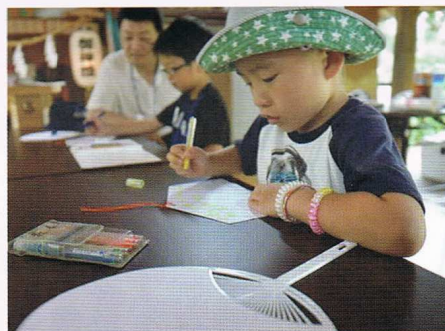
二一〇〇社の神社が宗教法人として登録されており、約三〇〇人の県内神職がお世話しています。しかし、この現代社会において親が神職だから、自分もという子弟は少なく、神社界では氏子の減少同様、神職後継者問題が大きな課題となっています。会では幼い頃より神社や神様に慣れ親しんでもらい、将来は神職になつてもらえればと、子供たちの夏休みを利用したの実施となりました。



去る八月七日、大分県神道青年会（会長長澤周一郎）による「子弟の集い」が当社を会場に実施されました。神道青年会とは神社庁に付随する県内二十代〜三十代の若手神職で構成された団体です。現在、大分県には約

大分県神道青年会

神社で子弟の集いを開催



まず本殿前で朝拝行事をおこない、続いて忠魂碑周辺の清掃をしました。子供たちは慣れない道具を使つて汗まみれに

なりながら、一生懸命に取り組んでいました。続いて会員による日本神話の読み聞かせを見学。笛や太鼓による音色の中、兄弟は仲良くという教えの「うみさちやまさち」が演じられました。また、ワークショップとして祈願絵馬の作成、昨夏、集中豪雨によって被災した愛媛・広島県に対しての応援うちわも併せて作成し

溝部前神社 総代長逝去

一昨年の三月に総代長を退任されて以降も、引き続き後輩の指導の為、総代顧問として、神社の護持運営にご尽力戴いておりました溝部定見前神社総代長が、去る十月二十六日逝去されました。

ご遺族の話では総代長に就任する頃、故人は大病を患い、あと数日の命と医者から宣告されていました。しかし、責任感が強く、敬神の念篤い故人は総代長の申し出を断らず快く引き受けて下さったそう

奉納品紹介

- 一、頓宮提灯一式 矢野義明・天湖
 - 一、遺族会館門帳一式 溝部洋子
- ご奉納ありがとうございました

ひとりごとがご神前に進み玉串を捧げました。子供たちにとっては全てが初めての体験となり、楽しい交流会となりました。

【御功績】

社殿・頓宮・社務所の改築、戦没者慰霊祭の復活、千二百五十年祭の斎行等多岐に亘る。併せて神社庁宇佐支部総代会長、宇佐神宮貴任役員、特別養護老人ホーム妻垣荘理事長、安心院遺族会会長等を歴任し、各界で多大な功績を残す。



亡くなる直前まで神輿とお神楽を誰よりも楽しみにしていました。享年83歳